

森良孝先生 : Nephrol Dial Transplant (2009) 1-9.

“手術不要、続発性副甲状腺機能亢進症にカルシメテックス！”

Long-term treatment with cinacalcet and conventional therapy reduces parathyroid hyperplasia in severe secondary hyperthyroidism

【背景】透析患者の続発性副甲状腺機能亢進症は、リンの蓄積や VitD の活性化障害により、PTH の産生過剰をきたしますが、腫大した副甲状腺も問題であり、切除術が基本と考えられてきました。昨年本邦でも発売された、カルシメテックス“cinacalcet”は、副甲状腺に Ca 過剰状態と勘違いさせることで、iPTH をしっかりと低下させることから非常に注目されています。今回は、腫大した副甲状腺に対して、形態学的にも影響をあたえるのかについて検討した研究です。

【方法】透析中の腫大した副甲状腺を有する続発性副甲状腺機能亢進症患者に対し、cinacalcet 投与群 (n=9)、コントロール群 (n=11) での、骨代謝マーカー、超音波による、副甲状腺サイズおよび血流量について約 2 年間～の追跡調査が行われました

【結果】治療はこれまでの VitD、リン吸着剤、炭酸カルシウムなどに add on する形で投与されましたが、高 iPTH の改善を認め、ALP 値も低下しました。エコーで検出される副甲状腺数が 28→23 に減少し、サイズも治療前の体積 < 500mm³ の副甲状腺では 68% の減少、> 500mm³ では 54% の減少を認め、もとのサイズに関係なく確実にサイズの減少および血流の減少が確認されました。

【結論】このように、これまで手術に頼っていた続発性副甲状腺機能亢進症の治療は、“cinacalcet”により機能的だけでなく形態的にも改善することが明らかになり、今後益々需要が拡大するものと思われます。これは、やっぱり買い！でしょう。。(文責 阿比留)